

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第 65 号 (2016 年 5 月 9 日)
LET 九州・沖縄支部事務局発行
〒818-0192 太宰府市石坂 2-12-1
筑紫女学園大学 松崎徹研究室内
TEL 092-925-9279
E-mail: secretariat@j-LET-ko.org
編集: 植田 正暢・林 裕子・事務局

外国語教育メディア学会(LET)九州・沖縄支部長に就任して

LET 九州・沖縄支部支部長
田口 純 (筑紫女学園大学)



本年 4 月より LET 九州・沖縄支部第 7 代支部長を拝命した田口と申します。任期は 2016 年 4 月から 2 年間です。どうぞよろしく願いいたします。今年 2 月に開催された 2015 年度第 3 回 LET 九州・沖縄支部運営委員会 (田口は校務のため欠席。)での支部役員選挙において、支部長に選出されたとの報告を受けました。全く予想もしていなかったことで、歴代の支部長がなさってこられた大任を引き受ける重責を担わなければならないプレッシャーに押しつぶされそうになりながらも、支部役員に有能な先生方をお願いすることにより、なんとかその任を果たせる道筋が見えてまいりました。そして、島谷浩前支部長から運営委員へのメーリングリストでの稟議書により、新年度の支部役員とともに承認いただき、順調に新体制をスタートさせることができ、安堵いたしました。前支部長時代に始められたメール稟議ですが、次年度に新体制へスムーズに移行できて、大変感謝しております。

新年度を迎え、さっそく今年度第 1 回支部運営委員会を 4 月 16 日に開催すべく準備

していた 14 日夜半、熊本地方を震源とする大きな地震が起こり、さらに、16 日深夜にはそれを上回る地震が同地方で再度起こり、未曾有の災害となったことは会員の皆さまのよくご存知のとおりです。前支部長の島谷先生を始め、熊本県や大分県に在住の先生方も少なからず被害に遭われました。この場をお借りして、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。地震発生から約ひと月経ちましたが、一日も早く以前の平穏な生活を取り戻されますようお願いしております。なお、予定していた支部運営委員会は 4 月 30 日に実施されたことを付け加えておきます。

新体制についてですが、非力な新支部長を支えていただける副支部長には長加奈子先生 (福岡大学) と荒木瑞夫先生 (宮崎大学) のお二人が選出されました。長先生は昨年度までの 3 期 6 年間に事務局長として奮闘してこられました。荒木先生は国際交流委員としてご活躍されました。さらに、運営委員や評議員として積極的に支部運営に参画してこられた柿元悦子先生 (九州産業大学) がこのお二人とともに支部選出理

事に選出されました。これら有能な理事の先生方によって、全国研究大会時の理事会や新たに発足した会長・副会長会議などの席において、九州・沖縄支部の意見を代弁していただけるものと期待しております。次に、新事務局長には松崎徹先生（筑紫女学園大学）をお願いいたしました。松崎先生はこれまで2年間、支部幹事を担当され、長前事務局長の負担の軽減のためにご努力なされてこられました。松崎先生の後を継ぐ形で新しく支部幹事として植田正暢先生（北九州市立大学）と大藺修一先生（九州産業大学）にご担当いただき、松崎事務局長を支えていただくことになりました。これまでは事務局長の業務がかなり広範にわたっており、その負担も多くございましたが、これを少しでも解消すべく、支部幹事を二人体制で置くとともに、前述のお二人の副支部長にはそれぞれ支部研究大会担当（長副支部長）と支部紀要編集担当（荒木副支部長）をお願いいたしました。支部研究大会では開催校の先生に実行委員長を引き受けていただいておりますが、開催校の実務と支部の実務とを仲介していただく役割として支部研究大会担当副支部長を試験的に導入いたしました。また、支部紀要編集担当の荒木先生には支部紀要編集委員長にご就任いただいて、実務をご担当いただくことにいたしました。支部長が支部の会務を総括し、支部を代表する体制にはかわりございませんが、副支部長の実務的な業務を事務局長と分担することにより、支部の運営をさらに活性化させて、発展させることを目的としております。

私が任期中に何をなすべきかを考えるときに、『LET 九州・沖縄支部だより』第 61

号に島谷前支部長が書かれた次の3点に注目いたしました。(1) 小・中・高の先生方の会員を増やすことについて、(2) 英語以外の外国語教育関係者の参加について、(3) コンピュータ等のデジタル機器と人間の内面を結びつける方法について、です。

(1) の具体策としては、昨年度開催された支部研究大会（長崎大学）で大会テーマ『「授業は英語で」を支える理論とその実践』のもと、シンポジウムにおいて鹿児島、佐賀、長崎の高校の先生方にパネリストとしてご発表いただき、地元長崎をはじめとする中・高の先生方にも多くご参加いただき、活発な質疑応答がなされたことは記憶に新しいところです。今年度の支部研究大会（北九州市立大学）では、いわば昨年を引き継ぎさらに発展させる形で、大会テーマを『中学・高校・大学におけるリーディング活動—主体的な学びを目指して—』として、中・高・大を繋ぐシンポジウムを予定しております。2020 年度から新しい学習指導要領によって、小学校高学年から正式に教科としての英語教育がスタートいたします。小・中・高の先生方の会員は会員全体からはまだまだ多くはございませんが、支部研究大会やワークショップ、講演会などを通して、現場の先生方にも参画していただけるよう、今後も努力していきたいと思っております。

(2) 英語以外の外国語教育関係者の参加についてですが、昨今、欧州評議会が定めたヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に関する様々な研究が日本でも行われ、その背景となる複言語複文化主義をもとに外国語教育を再構築する大学も現れてきております。この流れは今後さらに発展するのではないかと思いますので、英語以外の外

国語教育で各種機器を利活用している団体との交流を促進できればと思っております。

(3) のコンピュータ等のデジタル機器と人間の内面を結びつける方法については、島谷前支部長時代に復活したワークショップや学術講演会をさらに発展させて、研究と現場の実践を有機的に連関させられるように努力を払っていきたいと思っております。上記 3 点のほかにも九州・沖縄支部会員数を増やすための方策、支部研究プロジェクトや支部研究会の活性化、支部研究大会や支部紀要を今後どのように発展させていくかなど、課せられた課題は枚挙に遑がありませんが、できることから少しずつ、会員の皆さまのご協力を得ながら進めていければと思っております。

私が任期中の 2 年間から少し先の 2020 年度には LET 60 周年記念大会が九州・沖縄支部担当で開催される予定となっております。

ます。一昨年 2014 年 8 月に福岡大学を会場にして第 54 回全国研究大会を皆様方のご協力の下で行なったばかりでございますが、あと 4 年後には 60 周年記念大会がやってまいります。さらにもう一つ大きな節目として、同じ 2020 年度は LET 九州・沖縄支部設立 50 周年に当たり、何らかの記念行事を開催する必要があるのではないかと考えております。これら 2 つの大きな事業に向けて、これからの 2 年間でその足場固めを行ない、次へ繋いでいかななくてはなりません。運営委員会を中心にして、今後議論を活発化させて、十分な準備を進めていこうと思っております。先を見据えつつ、支部会員の皆さまの日々の教育や研究に不可欠な団体として LET 九州・沖縄支部をこれから 2 年間運営していく所存でございますので、これまで以上のご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

新事務局就任挨拶

LET 九州・沖縄支部事務局長
松崎 徹 (筑紫女学園大学)

2016 年 4 月 1 日より、長加奈子先生の後任として支部事務局長を務めさせていただくことになりました。まだ事務の引き継ぎが完了していないため、しばらくの間は長先生に事務負担の一部をお願いせざるを得ない状況ではありますが、同じくこの 4 月より支部長に就任された田口純先生を筆頭とする新執行部の支部運営が少しでも円滑に進むよう精一杯努めていく決意でいます。

まず当面の目標としましては、開催間近に迫った第 45 回支部研究大会 (於北九州市

立大学ひびきのキャンパス) を無事成功させることです。大会実行委員長の植田正暢先生のご尽力のもと、「中学・高校・大学におけるリーディング活動—主体的な学びを目指して—」を大会テーマといたしまして、現在急ピッチで準備を進めています。会員の皆様、どうぞお誘い合わせのうえ、ふっつのご参加をお待ちいたしております。

長期的なビジョンとしましては、2020 年に LET 九州・沖縄支部主催として開催予定の LET 全国大会に向けて着実にその準備

を進めていくことです。こちらのほうは、実行委員会の立ち上げから、開催地の選定、東京オリンピックとの住み分け、さらには支部創立 50 周年記念との兼ね合い等、克服すべき課題は山積ですが、地道にその解決

にひとつひとつ取り組んでいくしかないと考えています。

今後ともご支援のほどよろしくお願いたします。

第 45 回(2016 年度)九州・沖縄支部研究大会のご案内

大会実行委員長 植田正暢(北九州市立大学)

6月4日(土)に北九州市立大学ひびきのキャンパス(北九州市若松区ひびきの1-1)(写真1)で第45回支部研究大会が予定されています。今大会のテーマは「中学・高校・大学におけるリーディング活動—主体的な学びを目指して—」です。このテーマには3つのキーワードが埋め込まれています。1つめのキーワードは言語活動の中でも大会で焦点を当てている「リーディング活動」です。2つめは活動の場である「中学・高校・大学」であり、3つめはリーディング活動の目指すところである「主体的な学び」です。この3つのキーワードに着目して、今回の支部研究大会の趣旨やプログラムをご紹介します。と思います。

本題に入る前に、最近の英語教育をめぐる状況を簡単に見ておきたいと思います。今年の2月に文部科学省より「平成26年度英語教育改善のための英語力調査事業報告書」が公表されました。中学・高校における英語力が文科省の定めた目標に及んでいないということで、マスコミでも話題になったことは記憶に新しいことでしょう。この報告書では4技能(「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」)のそれぞれについて何ができて、何ができていないの

かを分析しています。「読むこと」に注目すると、単文レベルの意味を理解することは比較的できているが、まとまった英文の要点を理解したり、必要な情報を探したりすることに課題があることが指摘されています。その上で、訳読式から脱却し、目的に合わせて読み方を変える指導を行うことや、さらには読みながら考える習慣を促進するために、読んだあとの活動として議論をすることや書くことの必要性が述べられています。また、大学入試センター試験に代わる新たなテストとして「大学入学希望者学力評価テスト」(仮称)が話題になっていますが、このテストにおける英語の試験でも4技能を統合した評価が重要視され、「読むこと」や「聞くこと」だけではとどまらず、「話すこと」や「書くこと」も含めて評価されることが求められています。そのため、おそらく受信を発信につなげられるような力も評価されるのではないかと思います。

このような状況をふまえると、リーディングはもはや単文を正確に理解することだけでは十分ではなく、まとまりのある英文全体を目的に合わせた読み方をして理解して考え、さらには話したり、書いたりして発信につなげられることが求められている

ことが見えてきます。そのような時代の要請がある中で、どのようにしたら単文理解の積み重ねにとどまらないリーディングの授業が可能となるのでしょうか。また、どのようにしたら学習者が主体的に読むことができる授業を作ることができるのでしょうか。

今回の研究大会では、冒頭でも述べたように、中学から大学までの教育の場におけるリーディング活動を取りあげ、どのようにしたら主体的な学びに結びつけられるのかを探ろうとすることが大会テーマとなっています。大会は、講演、シンポジウム、ワークショップ全体で1つのハーモニーが奏でられるように企画されています。講演はリーディング活動の諸相を理論的側面から眺めた上で、どのように指導に反映させることができるのかという趣旨で講師の卯城祐司先生（筑波大学）にお話しいただく予定です。この講演がさながらハーモニーのバス（基調）を担うとすれば、シンポジウムはハーモニーに枠組みを与えるアルトといってもよいかもしれません。シンポジウムでは、中学校、高等学校、大学でご勤務なさっている田中大三先生（福岡市立姪浜中学校）、柿原寿人先生（福岡県立山門高等学校）、大藪修一先生（九州産業大学）がパネリストとしてそれぞれの立場からご自身の授業実践や感じている問題点を発表していただく予定です。（大藪先生はシンポジウムのコーディネーターも兼務されます。）ハーモニーのテナーとなるのがワークショップで、本学会の名称にもある「メディア」

に焦点を当てた企画となっています。講師に中村純一先生（佐賀市立大和中学校）をお迎えし、ICT を利用する環境が整っているとは言いがたい状況で、いかに iPad を活用してリーディングの授業で協働学習に結びつけるのかという実践報告も交えながら、ハンズオン形式で進めていただく予定です。参加される方はご自身で iPad を準備する必要はありませんが、定員がありますので早めに申込みしてください。そしてハーモニーの花であるソプラノに喩えられるのが、6件の研究発表です。最新の研究成果や実践報告を共有し、日々の授業や研究につなげていただけたらと願います。

大会まで約1ヶ月となり、研究大会の舞台は整いつつあります。ハーモニーを楽しめるコンサートは多くの観客が集ってこそ盛り上がるように、学会もまた多くの方が参加してはじめて活気づきます。美しい学術的ハーモニーを堪能していただけるように準備を進めています。一人でも多くの方に足を運んでいただけるよう大会実行委員一同でお待ち申し上げております。

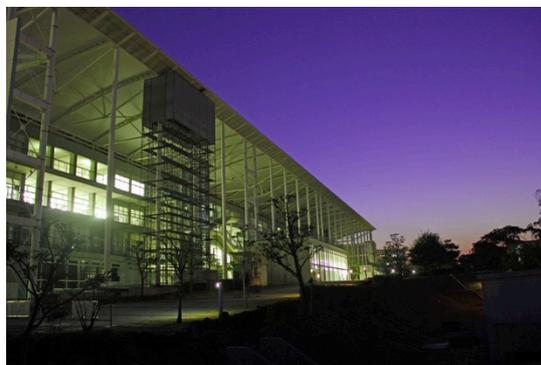


写真 1. 北九州市立大学ひびきのキャンパス

2015 年度秋季ワークショップ「モバイル機器の録音・撮影機能と Moodle を連携させたアウトプット活動の記録と評価」報告

LET 九州・沖縄支部副支部長
荒木 瑞夫 (宮崎大学)

2015 年 12 月 5 日(土)に行われた九州・沖縄支部のワークショップは、学習院大学外国語教育研究センター教授の熊井信弘先生をお招きし、「モバイル機器の録音・撮影機能と Moodle を連携させたアウトプット活動の記録と評価」と題して行われた。会場は、西南学院大学言語教育センターで、一見テレビスタジオ風の大きなカメラと大きなスクリーンのある部屋の中で、やはりスタジオ風の、程よい照明の中で行われた。

先生はまず、今回のワークショップの講師を務めることになった経緯から話を始められた。昨夏の大阪での全国大会でご発表された際、島谷浩支部長から声を掛けられたとのこと。先生のご発表を聞いた「ニコニコした島谷先生」が近寄って来られたそうだ。その様子が、とてもよくイメージできたのは私だけではないと思う。

熊井先生 (写真 2) はポップソングを使った教科書シリーズでも大変有名で (*Hit Parade Listening*, マクミラン社発行など)、自己紹介もかねて、まずその教科書のご紹介をされた。ただ歌を使うだけでなく、改訂の過程で、どのような試行錯誤があったのかを知ることができ、具体的でとても興味深く話を伺った。

私事ばかり書くことになるが、先生のご発表を初めて聞かせて頂いたのは今から 10 年ほど前の 2006 年の全国大会 (京都産業大学) でのシンポジウムで、当時話題になり始めた Moodle に関するシンポジウムだっ

た (九州・沖縄支部からは安浪誠祐先生がパネリストとして参加)。その時から私は先生をテクノロジーを使った英語教育が専門の方だと思っていたが、ポップソングを使った教科書作成からの流れをお聞きして、一貫して音声指導に関心を持ち続けておられることを、今回改めて理解したように思った。

* * *

さて本題であるモバイル機器を使った発話指導のお話である。今回お話しになったシステムは、まず Moodle を使った授業実践が中心にあり、Moodle 上で音声や動画を共有しピア・レビューができる機能を備えたプラグイン“VoiceShadow”と“Video Board”を独自開発されたとのこと (熊井, 2014)。またその拡張としてモバイル機器の関連アプリを自作なされた、というお話であった (熊井 & Daniels, 2013, 2015)。



写真 2. ワークショップの様子

参加者は事前に、(i)Voice Shadow App、(ii)Video Compressor の 2 つのアプリを各自のモバイル機器 (スマホやタブレット) にインストールして、ワークショップに臨んだ。(i)のアプリは Moodle と連携し、スマホでシャドウイングの練習を可能とするもので、モデル音声を聞きながら自分のシャドウイング音声を録音した後、Moodle にアップロードし、それを聞いて自己評価するというものであった。また、他のクラス参加者の音声も聞くことができるため、ピア・レビューも可能である。これと同様のことが動画でも可能で、参加者は、実際にその場で発話のパフォーマンスを録画し、(ii)のアプリでそれを圧縮し、熊井先生が用意してくださった Moodle サイトの “VideoBoard” に、アップロードした。アップロードされた動画は、Moodle 側で自動的に限定公開の形で YouTube 化される。Moodle 上で、参加者はさらに、他の参加者の動画を見て「評価」をつける。今回、“VideoBoard” 上での評価に 5 段階評価による数値のみでなく、Moodle に備わっているルーブリックによる教員からのより詳しいフィードバックと、ピア・レビューとして Facebook 風の「いいね！」ができるようになったとのことだった。

これらの一連の作業は必ずしも「教室」で行われる必要はないが、今回のワークショップではお互いに皆顔が見える中でアップロードし、これがなかなか盛り上がった。自分の動画が皆と共有されると、どうしても「他者の眼」を意識する。なんだかうまくやりたくなってくる。スマホと Moodle の組み合わせが、小さな「劇場」的空間を作り出す効果があるように思った。参加者

はスピードの差こそあれ、作業を完了し、自分や他人の動画を見て、まるで学生のように楽しんでた。私も「いいね！」を何度も押してみても、先生のおっしゃる、上下関係を含意しがちなピア・レビューを気軽に楽しくする効果を確認した。

かつて、LET 全国大会の基調講演も務めた Stephen Bax 氏は 2000 年代初めの時点で、機器のモバイル化でコンピュータは体に統合され、CALL からパソコンは消滅していくだろうとの見通しを述べた (Bax, 2003) が、その後、CALL 教室はみるみるうちに激減し、学生は (全てではないが) スマホを持つのが当たり前となり、逆にパソコンの操作に戸惑う人が増え今日に至っている。Bax 氏は、“CALL practitioners should be aiming at their own extinction.” とまで述べた (Bax, 2003, p. 23)。そこまで行き着くかは別として、近年のスマホはかつての PC のスペックを凌駕し、かつ PC にはない携帯性という利点を持ち、まだその機能は CALL において十分に汲み尽くされていない。熊井先生は、ご自身の長年の音声指導への関わりから、モバイルに行き着いているという点で、とても説得力があると思われた。

ただ実際のシステム開発には複雑な作業が必要となり、モバイル化はまだ過渡期ではある。今回、熊井先生は iOS (iPhone) 用のアプリを制作され、またビデオ・フォーマットの HTML5 への対応が最新版での改善点だったとのこと。アプリ開発にはそのような細かい対応が付いて回る。それでもアプリを作るには、きっと具体的で力強い「ビジョン」がないとできないと思われる。熊井先生は、ポップソングの教科書からの

音声指導に関する一貫したビジョンをお持ちで、それを具現化しておられると思われた。今後それがさらにどのような形になっていくのか、またその後のお話をぜひ伺いたいと思った。

なお、今回のワークショップでのご発表の詳細は『LET Kyushu-Okinawa BULLETIN』の最新号 (No. 16) に掲載されているので、ぜひご一読いただきたい。

<参考文献>

熊井信弘 & Daniels, P. (2013). 「モバイル・デバイスを利用したシャドーイング練習のための Moodle モジュールの開発とその活用」, 学習院大学外国語教育研究センター紀要『言語・文化・社会』11, 115-130.

熊井信弘 (2014). 「Capture, Upload, and Share — タブレット端末で記録したスピーキング活動をネット上で共有・評価するための Moodle 用モジュールの開発とその活用 —」, 『最新 ICT を活用した私の外国語授業』丸善プラネット, 53-62.

熊井信弘 & Daniels, P. (2015). 「効果的なアウトプット活動を行うためのモバイルデバイス活用法研究 — iPad と Moodle の連携 —」, 学習院大学外国語教育研究センター紀要『言語・文化・社会』13, 91-99.

Bax, S. (2003). CALL — past, present and future. *System*, 31, 13-28.

新運営委員のごあいさつ

Tomei, Joseph (熊本学園大学)

Hello, my name is Joe Tomei and I'm happy to have been asked to be part of the Kyushu-Okinawa chapter of LET steering committee. I have worked at Kumamoto Gakuen University for the past 19 years and before that, I was a *gaikokujin kyoushi* at Hokkaido University. I did my graduate work at the University of Oregon, and before that, taught English in France and Spain before participating in the JET program for the first 5 years, based in Sendai, Miyagi.

The first steering committee meeting

was originally scheduled for 16 April. I was presenting at IATEFL in Birmingham, UK and so wasn't able to attend. However, Mother Nature intervened with two large earthquakes, which had the meeting rescheduled for 30 April and I was able to attend with my colleague, Judy Yoneoka. Because I live in Kumamoto, I am reminded how much technology has changed our lives, in that I could speak to my wife and daughters immediately after both earthquakes and in fact, for the 2nd one, when I called, my wife replied 'We are still under the

table...' and after a few minutes, they were able to tell me they were uninjured and the house seemed undamaged (though they still slept in the car for the next few nights!) While that is a dramatic example of the changes that technology has brought, that experience of almost instantaneous connection, that shortening of distance made me realize how important LET is to help Japanese

education navigate these changes. I'm sure that the universities in Kumamoto will consider how to provide more teaching online, especially as some of our students may not be able to come to school for the coming year and I'm sure that the LET Kyushu-Okinawa chapter will help us in that task and I hope that I can make a small contribution to this important challenge.

林 裕 子 (佐賀大学)

今年度より外国語教育メディア学会九州・沖縄支部の運営委員を務めることになりました林裕子と申します。佐賀大学の教育学部に所属し、教員養成（初等・中等英語教育）を担当しております。応用言語学を専門とし、特に、認知心理学の知見を応用した外国語（英語）教育研究に取り組んでおります。前勤務先は福岡大学であり、

福岡大学の先生方を通じ本学会の研究大会や全国大会に参加するようになり、これまで多岐にわたり貴重な学習の機会を頂きました。今後は運営委員としまして、本学会の発展に少しでも貢献できますよう精進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

事務局からのお知らせ

【新会員（2015年10月26日現在）】

<正会員>

保田 幸子（九州大学）

Soda Takeshiro

<学生会員>

Blanco Cortés Laura María（九州大学）

【第45回支部研究大会】

第45回支部大会が以下の日程で開催されます。

日時：6月4日（土）10:40～17:50

会場：北九州市立大学ひびきのキャンパス
（北九州市若松区ひびきの1-1）

大会テーマ：中学・高校・大学におけるリーディング活動—主体的な学びを目指して—

資料代：非会員1,000円、非会員（学生）500円、会員無料

プログラム

1. ワークショップ

iPadを利活用した協働学習の工夫—英語のリーディング力と学習意欲向上への効果—

中村 純一 先生（佐賀市立大和中学校）

2. 基調講演

なぜ読めない、「読めたつもり」に終わるのか—英語リーディング研究からの示唆—

卯城 祐司 先生（筑波大学）

3. シンポジウム

中学・高校・大学におけるリーディング活動—主体的な学びを目指して—

コーディネーター・パネリスト

大藺 修一 先生（九州産業大学）

パネリスト

田中 大三 先生（福岡市立姪浜中学校）

柿原 寿人 先生（福岡県立山門高等学校）

4. 研究発表

5. 情報交換会（ぶどうの樹 野の食卓）

ワークショップ、情報交換会等のお申し込み受け付けは5月中旬より開始予定です。

会場へのアクセス

電車：JR 鹿児島本線 折尾駅（博多駅より特急で約35分、小倉駅より約20分）

タクシー（折尾駅より）：

折尾駅北口乗場（所要時間約10分）

バス（折尾駅より）：

折尾駅西口より北九州市営バス（所要時間約20分）

北九州市営バス時刻表

行先	学研都市ひびきの	
行先番号	33	64
ワークショップから参加	10:17 ↓	9:42 ↓
	10:34	9:57
開会式から参加	11:17 ↓	11:42 ↓
	11:34	11:57

※5月2日現在。ご利用の際には最新の時刻表をご確認ください。

車：駐車場に限りがありますので、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

北九州空港からエアポートバス（黒崎・折尾・学研都市方面）もあります。

支部研究大会のチラシを用意しました。ご所属先に掲示していただければ幸いです。

<http://www.j-let-ko.org/htdocs/index.php?key=joxvz3sda-65-65>

【第 56 回全国研究大会】

第 56 回 LET 全国大会が以下の日程で開催されます。

日時：8月7日（日）～9日（火）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス

大会テーマ：外国語授業改革：次世代につながる授業の形と役割

詳細につきましては大会ホームページ

(<http://www.j-let.org/let2016/>) をご覧ください。

【会費納入のお願い】

2016 年度の会費振り込みのお願いが、登録住所宛に送付されていると思います。ま

だお振り込みいただいている会員の方は、お早めにお振り込みいただきますようお願いいたします（個人会員・団体会員は 6,000 円、学生会員は 3,000 円）。未納の状態が続く場合には支部からの発送物を停止させていただきます場合がございます。支部の円滑な運営の為にもご協力をお願いいたします。なお住所・所属等に変更が生じた場合には、学会本部の HP より変更していただきますようお願い申し上げます。

【LET ホームページ】

<LET 本部> <http://www.j-let.org>

<LET 九州・沖縄支部>

<http://www.j-let-ko.org/>

【LET 九州・沖縄支部事務局】

〒818-0192 太宰府市石坂 2-12-1

筑紫女学園大学 松崎徹研究室内